



大島商船高等専門学校

数理・データサイエンス・AI教育プログラム 自己点検評価(リテラシーレベル)

評価日時 : 2024年9月6日 会議名称 : 自己点検・評価委員会 開催場所 : 大島商船高等専門学校
参加者 : 学校長, 副校長(総務主事, 教務主事, 学生主事, 総務主事), 専攻科長, 各科の学科長, 事務部長
目的 : 令和5年度の数理・データサイエンス・AI教育プログラムの自己点検・内部評価
評価項目 : 文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(リテラシーレベル)」の審査項目の観点による評価

認定制度(リテラシーレベル)の審査項目	モデルカリキュラム	内部評価	評価理由
(1) 現在進行中の社会変化(第4次産業革命, Society 5.0, データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり, それが自らの生活と密接に結びついている	導入 1-1. 社会で起きている変化 1-6. データ・AI利活用の最新動向	A	各科の情報リテラシー科目でデータ・AI利活用の最新動向を学ぶことができた
(2) 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって, 日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	導入 1-2. 社会で活用されているデータ 1-3. データ・AIの活用領域	A	各科の情報リテラシー科目で, データ・AIの活用領域について学ぶことができた
(3) 様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され, 様々な適用領域(流通, 製造, 金融, サービス, インフラ, 公共, ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	導入 1-4. データ・AI利活用のための技術 1-5. データ・AI利活用の現場	A	各科の情報リテラシー科目でデータ利活用の事例が紹介され, 理解を深めることができた
(4) 活用に当たっての様々な留意事項(ELSI, 個人情報, データ倫理, AI社会原則等)を考慮し, 情報セキュリティや情報漏洩等, データを守る上での留意事項への理解をする	心得 3-1. データ・AIを扱う上での留意事項 3-2. データを扱う	A	各科の情報リテラシー科目で, 情報セキュリティなどに関する理解を深めることができた
(5) 実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など, 社会での実例を題材として, 「データを読む, 説明する, 扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	基礎 2-1. データを読む 2-2. データを扱う 2-3. データを説明する	A	各科の実験実習において, 実データを用いた課題に取り組み, 「データを読む, 説明する, 扱う」ことに取り組むことができた

S: 審査項目の観点を上回る成果を達成した。
A: 審査項目の観点通りの成果を達成した。
B: 審査項目の観点通りの成果を達成できなかったが, 達成に向けての対応策が立案され, 対応に着手している。
C: 審査項目の観点通りの成果を達成できなかった。さらに, 達成に向けた対応策が立案されていない